

【第6会場：4S03教室（17）】

団体名：ふじのくに多文化共生ネット

<https://ja-jp.facebook.com/FujinokuniTabunkaKyoseiNet>

### <団体紹介>

ふじのくに多文化共生ネットは、平成25年の春に設立されたばかりの若い団体です。

当団体は、静岡県東部で、多文化共生の地域づくりに貢献する人材の育成と活動の支援を行うこと、そのための事業を推進することを目的に設立されました。

- 静岡県東部は、西部と比較すると外国人の数が少ない  
そのため日本人の関心や理解も低く、支援も普及・充実していない
- 静岡県東部の中心、沼津市の外国人登録者数は県内で5番目。四分の一が永住者

	沼津市（平成25年4月）	静岡県（平成24年12月）
総人口	205,887人	3,731,717人
外国人登録者数	3,550人	76,284人
人口比	1.7%	2.04%
上位五か国	①フィリピン ②中国 ③韓国・朝鮮 ④ペルー ⑤ブラジル	①ブラジル ②中国 ③フィリピン ④韓国・朝鮮 ⑤ペルー

- ボランティアが教えている入門・初級レベルの教室はいくつもあるが、教室同士の協働や連携、日本語教育や国際交流と関係の無い団体との交流はほとんどない。
- 他の分野のボランティア、まちづくり、自治会等の活動をしているのは日本人ばかり。
- 外国人の日本語学習環境の改善や社会参画を推進するためには、
  1. 地域住民（日本人）の外国人や多文化共生に対する関心を得ること
  2. 外国人も日本人と共に地域で生活している住民であることを理解してもらうこと
  3. 外国人のための日本語教育が、外国人と日本人双方にとって、共に安心して快適に暮らすために重要で意義のあることであることを理解してもらうことが必要

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の様子



事業実施概要

事業名称	世界文化遺産「富士山」を有する地域に力を与える外国人と日本人の多文化共生サポーター育成事業			
地域の課題	静岡県東部地域では、ボランティアによる入門・初級レベルの外国人に対する日本語教育事業は進んでいるが、中級・上級レベルの日本語教育や外国人が社会参画出来るまでの支援はまだ不十分である。また日本人地域住民の外国人に対する関心も低く、日本語教育の意義についても理解されていない。			
事業の目的	中級・上級レベルの日本語能力を持つ外国人が自分の住む地域に愛着を持ち、積極的に地域の活動に参加し社会参画出来るようになるための日本語講座を開催する。外国人と日本人が協働し相互理解を深めるための機会を提供し、日本人には多文化共生の意義、多文化パワーの素晴らしさ、外国人に対する日本語教育が外国人のみならず日本人にも地域にとっても意義のあるものであることを理解してもらう。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	市民と協働しながら学ぶ外国人多文化共生サポーターのための日本語講座	名称	多文化共生サポーターによる世界文化遺産富士山と静岡県の魅力発見・発信プロジェクト
	内容	多様な講師による、多様なテーマの講座(富士山、静岡県の観光と多文化共生への取り組み、静岡県東部のまちづくり、防災、異文化理解等)。外国人と日本人と一緒に講座を受け、ディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーションを行う。	内容	世界文化遺産となった富士山の文化遺産構成資産を巡り、富士山および周辺地域の文化・歴史について学び、地元住民とふれあい、外国人の目から見た富士山と地元の魅力をインターネット、ポスター、口頭発表で発信する。
	対象	中級以上の日本語会話が出来る外国人と、多文化共生・日本語教育に関心がある日本人。	対象	取組1の受講者と静岡県東部地域の日本人。大学生ボランティア。富士山周辺地域の住民。
	時間	1回2時間×5回、1回3時間×10回(全40時間)	時間	1回12時間×1回(全12時間)
	人数	24人(ブラジル2、アルゼンチン2、ペルー2、台湾2、ウルグアイ1、フィリピン1、ベトナム1、日本13)	人数	14人(ブラジル2、アルゼンチン2、ペルー2、ウルグアイ1、フィリピン1、日本6)。大学生ボランティア15人。地域住民多数。
	取組3		取組4	
	名称	地域に活力を与える多文化共生を考えるシンポジウム	名称	多文化共生サポーター育成協議会の設置
	内容	講座の成果を発表し多文化共生と、外国人への日本語教育の意義を発信。	内容	外国人の社会参画に必要な日本語教育と道筋づくりについて意見交換。
	対象	多文化共生・まちづくり・日本語教育・国際交流等に興味がある方	対象	日本語教育・人材育成・多文化共生の専門家と外国人の講座受講生
時間	4時間	時間	1回2時間×5回(合計10時間)	
人数	50人	人数	6人	
連携体制	静岡県(多文化共生課、観光課、男女共同参画)、沼津市市民協働課、三島市、富士市、日本大学、西富士中学校、まちづくりNPO法人、国際交流協会、文化遺産構成資産の博物館・観光地・神社・遺跡等			
成果と課題	同じ地域で暮らしている日本語能力が高い外国人の方々と日本人が国籍を超えて知り合えたこと、異文化について考え話し合う機会が得られたこと、外国人と日本人が協働しながら活動することで相互理解と連帯感、地域への関心が生まれたことは大きな成果であった。ふだん外国人と接する機会の少ない日本人への良い刺激になった。日本語教師ではない専門家の方が講師の場合、説明の日本語が難しすぎて外国人受講者が理解しきれないことがあった。資料の漢字にルビをつけたり予備学習が出来るようにしておいた方が良かった。			
発表者から一言	取組1と2を中心に発表します。静岡県東部で初めての試みだったため、全てがゼロからのスタートでした。			